

学修時間・学修行動調査（平成 28 年度後期） 分析結果

学習支援センター IR 推進室

平成 29 年 2 月 28 日

本資料は、平成 29 年 1 月 16 日から 1 月 30 日にかけて、学習支援センターIR 推進室が実施した「学修時間・学修行動調査（平成 28 年度後期）」の回答内容を分析したものである。本調査は、平成 25 年度前期より、各期の終了後に 4 学部の 1～3 年生から学生を抽出して実施しており、今回は、経営学部、社会学部、ソフトウェア情報学部、薬学部の 4 学部の 1～3 年生から回答を得た。調査の回答数を表 1 にまとめる。回答総数は、302 名であった。過去の回答数は、平成 25 年度が 176 名（前期）と 201 名（後期）、平成 26 年度が 332 名（前期）と 265 名（後期）、平成 27 年度が 299 名（前期）と 151 名（後期）、平成 28 年度前期が 231 名となっている。なお、平成 25 年度後期は経営学部が、平成 27 年度後期は社会学部が調査に参加できていない。平成 28 年度前期調査と比較すると、経営学部で 34 名、薬学部で 23 名と大きく増え、次いで社会学部（11 名増）、ソフトウェア情報学部（3 名増）と、4 学部すべてで回答者数が増えている。

表 1 学部・学年別回答学生数

	経営学部	社会学部	ソフトウェア 情報学部	薬学部	学年計
1 年生	26 名	37 名	14 名	22 名	99 名
2 年生	20 名	36 名	34 名	24 名	114 名
3 年生	24 名	32 名	17 名	16 名	89 名
学部計	70 名	105 名	65 名	62 名	302 名

調査の内容は、平成 28 年度後期の授業時間中の学修時間・行動に関する設問（9 問）、授業時間外の学修時間・行動に関するもの（4 問）及び能力・行動の変化に関するもの（9 問）の合計 22 問である。これらは、平成 25 年度（前期・後期）以降の調査とほぼ同じである。一部無回答の欄もあったものの、ほとんどの学生がすべての質問に回答した。

質問から抜き出した 10 項目に関する分析結果を、以下に示す。

（授業時間中の学修）

（1）受講した科目数（集中講義を除く）

まず、平成 28 年度後期に受講した科目数（集中講義を除く）を調べた（表 2、表 3）。

学年別の集計においては、従来同様、受講科目数は 1 年生がもっとも多く、学年進行にともなって減少する傾向が見られた。平均や標準偏差の値は、若干の増減はあるものの、これまでの調査と大きな違いは見られない。また、学部ごとの平均値と標準偏差も、同様であった。

最大値と最小値に大きな差があるのも、これまでの調査と同じ傾向である。とくに最小値は、1 年生で

は基礎スタンダード科目群の必修科目も多いためか7科目であるが、2年生以降は3科目と減少しており、前期と後期の履修が一方に偏っていることも考えられる。なお、前回の調査で見られた0科目や1科目といった明らかに実態に合わない回答は、今回は見られなかった。

表2 受講科目数（学年別、集中講義以外）

学年	平均	最大	最小	標準偏差
1年生	13.58	18	7	2.24
2年生	10.97	19	3	2.58
3年生	9.25	14	3	2.75

表3 受講科目数（学部別、集中講義以外）

学部	平均	最大	最小	標準偏差
経営学部	11.69	14	3	2.93
社会学部	10.94	16	3	3.15
ソフトウェア 情報学部	10.28	14	3	2.81
薬学部	12.56	17	7	2.84

(2) 受講した集中講義の科目数

参考のため、集中講義の受講数についても調査した（表4、表5）。学年別では3年生で平均が1を超えもっとも多く、他の学年はその半数程度である。学部別では、薬学部が平均1.29と多く、ソフトウェア情報学部は最大でも2と少ない。この傾向は、過去の調査でも見られる。経営学部は薬学部の次に標準偏差が大きく、集中講義を履修している学生としていない学生のばらつきが大きくなっている。

表4 受講科目数（学年別、集中講義）

学年	平均	最大	最小	標準偏差
1年生	0.43	6	0	0.89
2年生	0.38	2	0	0.56
3年生	1.07	6	0	1.37

表5 受講科目数（学部別、集中講義）

学部	平均	最大	最小	標準偏差
経営学部	0.56	4	0	1.03
社会学部	0.47	3	0	0.78
ソフトウェア 情報学部	0.10	2	0	0.35
薬学部	1.29	6	0	1.18

(3) 授業中、最初から最後まで集中できた授業の割合

全体の授業のうちで最初から最後まで集中できた授業の割合を、学年別と学部別にまとめた(図1、図2)。学年別では、2年生の集中度が全体的に低めである。75%以上集中したと回答した割合は、2年生が若干少ないものの、ほぼ2割居ることが分かった。過去の調査では、特に後期は集中できた授業が75%以上の割合は2年生が最小のことがほとんどで、学年間の差は減ったものの今回も同様の結果であった。

学部別では、75%以上集中できた割合は20%前後で多少のばらつきが見られた。一方で、25%未満しか集中できなかった割合は経営学部がもっとも少なく、薬学部が20%弱ともっとも多かった。学部別の分布は調査ごとに違いが見られるが、今年度前期の調査と比べると、社会学部とソフトウェア情報学部ではあまり違いはなく、経営学部では「75%以上集中」が10ポイント程度増え、逆に「25%未満の集中」が20ポイント程度減るなど、大幅な改善が見られた。また薬学部では、75%以上集中と25%未満集中がそれぞれ5ポイント程度増えるとともに、特に25%~49%と回答した割合が10ポイント程度増えている。結果的に、50%以上集中できた割合は、経営学部で20ポイント程度増加し、薬学部では20ポイント程度減少している。前期と後期でこれほど大きな違いが現れたのは、今年度が初めてである。前回調査において薬学部で80%を超えたのが特異な状況であったのか、次回以降の調査でも注目したい。

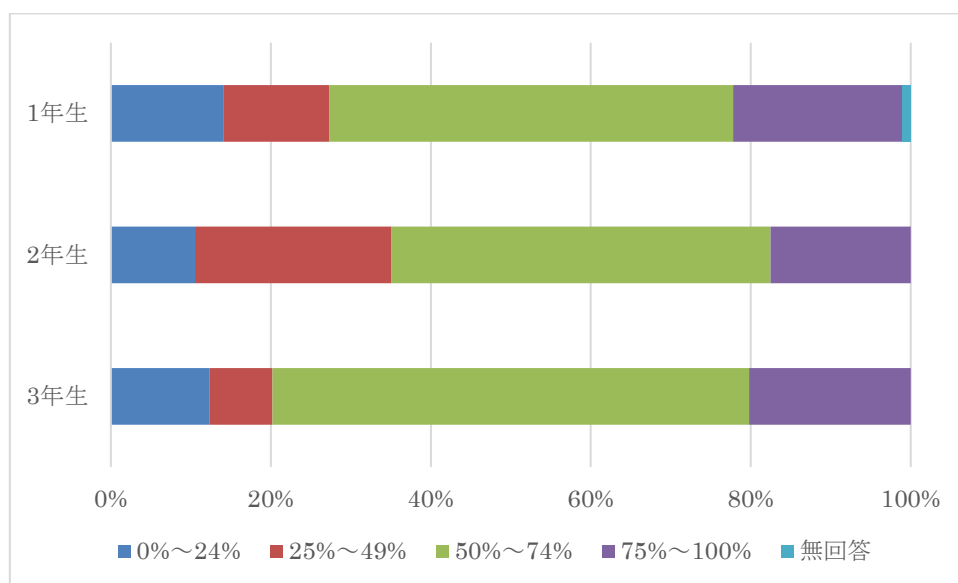


図1 集中できた授業の割合(学年別)

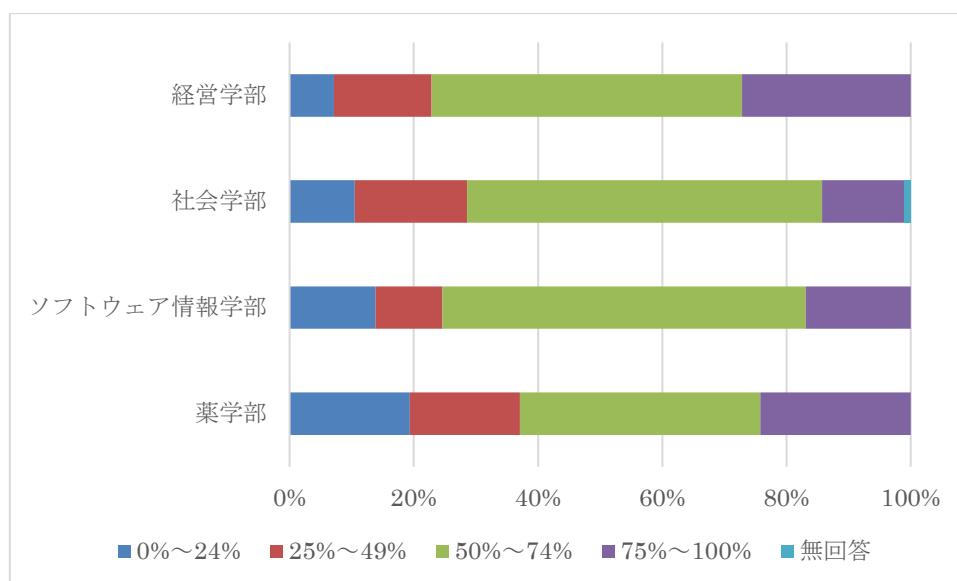


図2 集中できた授業の割合（学部別）

さらに、集中できた理由を自由記述形式で尋ねた。

- a) 自分にとって興味のある・面白いと思える内容を扱っている（109件）
- b) 教員の指導方法が上手である（29件）
- c) 付いていけないなどの危機感（27件）
- d) 自分が頑張った（自発性発揮など）（25件）
- e) 自分の将来にとって、有用だと判断した（資格取得など）（21件）
- f) 自分で問題を解いたり、グループワークをする必要があった（17件）
- g) 板書が多く、ノート作りをきちんとしなくてはならない（13件）
- h) 気分・体調（11件）
- i) 時限や周りの環境（7件）
- j) 内容が理解できて、自信が付いた（3件）
- k) 教員の姿勢（熱意、まじめ、優しいなど）（2件）
- l) その他（12件）

回答の傾向は、概ねこれまでの調査と同じであった。a) は全体の4割ほどと突出して多い理由で、学生の興味や関心に合った内容を扱うことが、集中力の向上につながっている。次いで、教員の指導方法の上手さをあげている学生が、全体の1割程度いる。この二つの理由は、過去の調査でもこの順序で上位を占めている。前回の調査では三番目に気分や体調、周りの環境を理由にあげた件数が上位に入るという結果が見られたが、今回は、危機感、自身の頑張り、主体性が必要といった理由が続いた。学生に合わせた内容の提示や指導法の工夫など、主に教員側のスキルに依る理由があげられることから、授業改善のしくみ作りが有効であると考えられる。また、危機感、自身の頑張り、有用性の認識を意識させるには、自身の関心・能力の把握や大学での学び方を認識させるなどの取り組みが有効と思われる。

その他に分類した内容には、「90分間も集中が続かない」などの集中が途切れる要因に対する回答や、

「受講科目数が少ない」、「長い授業に慣れている」などの回答が含まれている。

(4) 授業中の教員への質問回数

授業中（実習・実験以外）の教員への質問回数を学年別にまとめたものが、図 3 である。学年に関わらず、まったく質問をしない学生が全学年で 4 割弱見られることを含めて、全体的な割合は、これまでの調査とほぼ変わらない。ただし、直近 2 回の調査で見られた「10 回以上質問したと回答した学生の割合が、学年が上がるごとに増加する」傾向は今回の調査では見られず、在学期間が長くなるにつれて（特定の）教員との関係が着実に構築されるのではないかとの仮定は成り立たなかった。

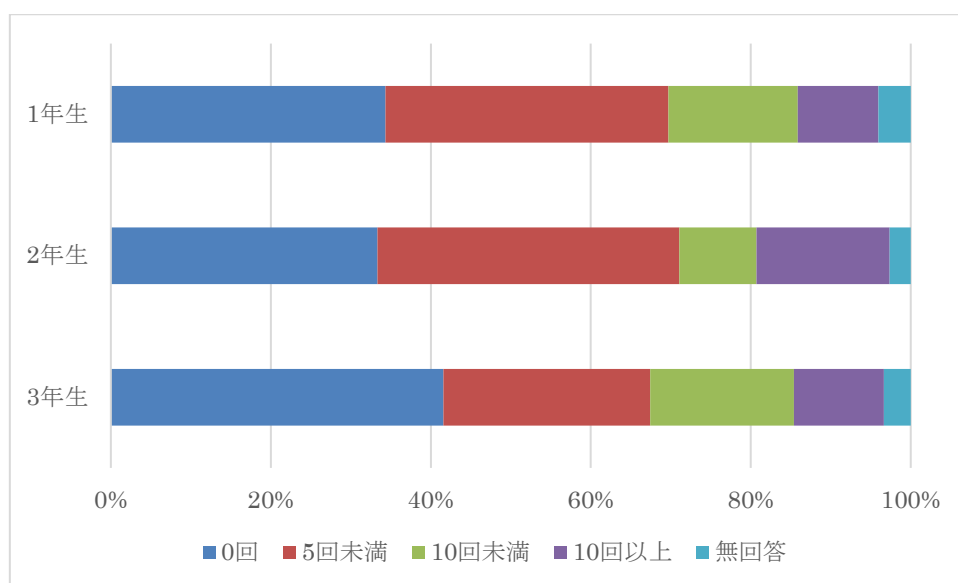


図 3 授業中の教員への質問回数（学年別）

(5) グループ活動の回数

授業中のグループ活動の総数を、図 4 と図 5 にまとめた。学年別では、30 回以上のグループ活動を行ったと回答した割合は 1 年生が 3.1%、2 年生が 5.5%と少なく、3 年生ではほぼ見られない。逆に、まったくグループ活動を行わなかったと回答した割合は、1 年生が 2.1%ともっとも少なく、2 年生と 3 年生では 10%前半であった。これら二点に関してこれまでの調査と比較すると、30 回以上のグループ活動を行った割合は、前回の調査では 16.0%（1 年生）、9.4%（2 年生）、1.7%（3 年生）となっており、とくに 1 年生の減少が大きい。前々回以前の調査でも、後期は前期に比べて少なめであるものの、1 年生の割合がもっとも大きい状況であった。これまでは 1 年次の基礎スタンダード科目群のオムニバス科目で行ってきたグループ活動が全体的に少なくなっていることが大きな要因と考えられる。他方、グループ活動を一回も行わなかったとする割合は、前回の調査では 2.5%（1 年生）、7.1%（2 年生）、31.0%（3 年生）であった。前々回までの調査を含めても、これまでは一貫して 3 年生になるとグループ活動を行っていない割合が急増していたが、今回は 2 年生の状況とほぼ変わらない。とくに「0 回以上 5 回未満」の割合が増えており、キャリア支援科目のグループ活動の回数が増えたことや、専門科目におけるグループ活動の増加が理由として考えられる。

学部別では、社会学部が全体的に多めで、経営学部と薬学部が続いている。ソフトウェア情報学部で

は、0回と回答した学生が20.3%と多く、5回未満まで含めると60.9%にもものぼる。

これまでの調査と比較すると、社会学部に関しては一貫してグループ活動が他の学部よりも盛んであり、今回もこの傾向が続いている。経営学部もこれまでとほぼ同じ結果が見られた。薬学部では、以前は徐々に増加傾向にあった活動状況が前回は減少に転じたが、今回の調査では30回以上の割合は減ったものの全体的には再び増加に転じた。ソフトウェア情報学部は、これまでの調査では毎回社会学部に次いで活動が盛んな様子が見られたが、今回は活動回数が「0回」と「5回未満」の割合が大きく増えた。その結果、活動状況がもっとも低いのは薬学部という状況が続いていたが、今回初めてソフトウェア情報学部がこれに代わることとなった。

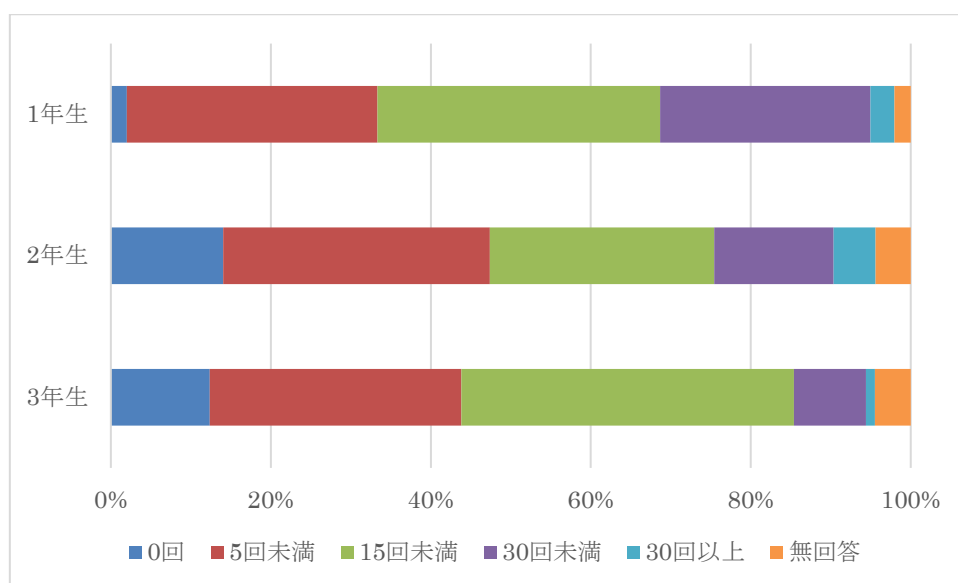


図4 グループ活動の回数（学年別）

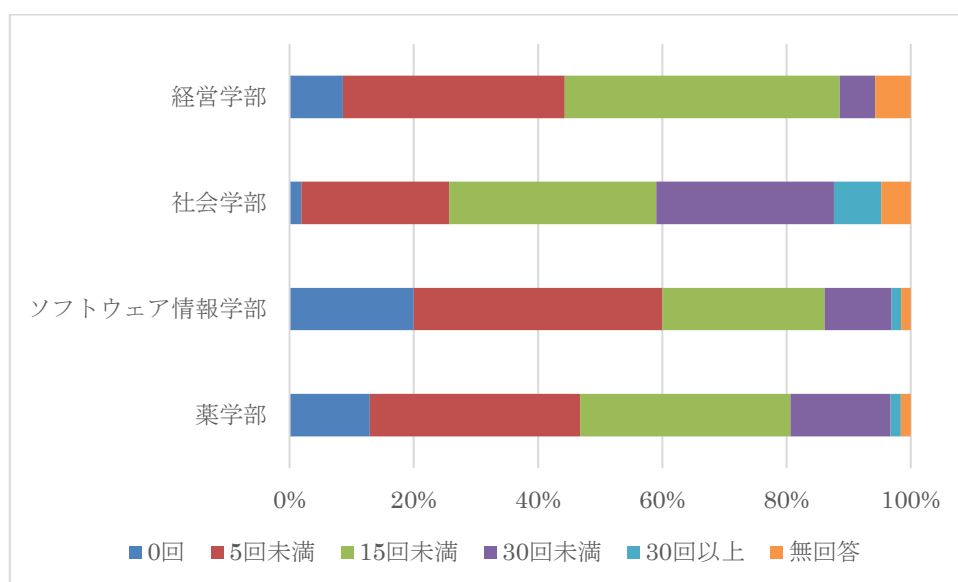


図5 グループ活動の回数（学部別）

(6) 発表の回数

(5) と関連して、授業中に行った発表の総数を図6と図7にまとめた。学年別では、発表を1回以上5回未満行った割合がどの学年でももっとも多い。また、15回未満まで広げると、1年生では全体の90.6%、2年生では75.7%、3年生では86.6%とほとんどがこの範囲に含まれる。これまでの調査も含めると、発表回数が0回の割合は、前期は学年が上がるにつれて増加し、後期は2年生が他の学年よりも高い傾向があり、今回も同様となった。一方、後期だけの推移では、3年生の発表回数が全体的に増えてきている。

学部別では、発表回数が0回の割合はソフトウェア情報学部が25.0%と高めで、他の学部はおよそ1割以下である。また、薬学部では1回以上5回未満に78.3%が含まれ、5回以上の割合はもっとも少ない。過去の結果と比べると、回数が0回の割合は薬学部と経営学部で減り、発表の機会が増えている。一方、ソフトウェア情報学部では0回の割合が過去最高となり、(5)のグループ活動と合わせて発表の機会も減少しており、アクティブ・ラーニングにつながるこれらの活動が衰退している状況が見られる。

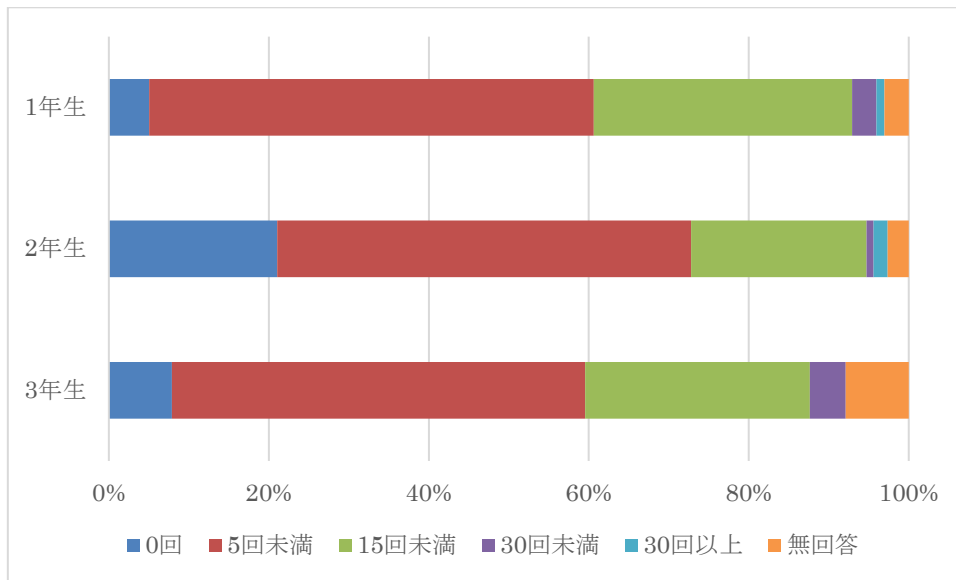


図6 発表の回数（学年別）

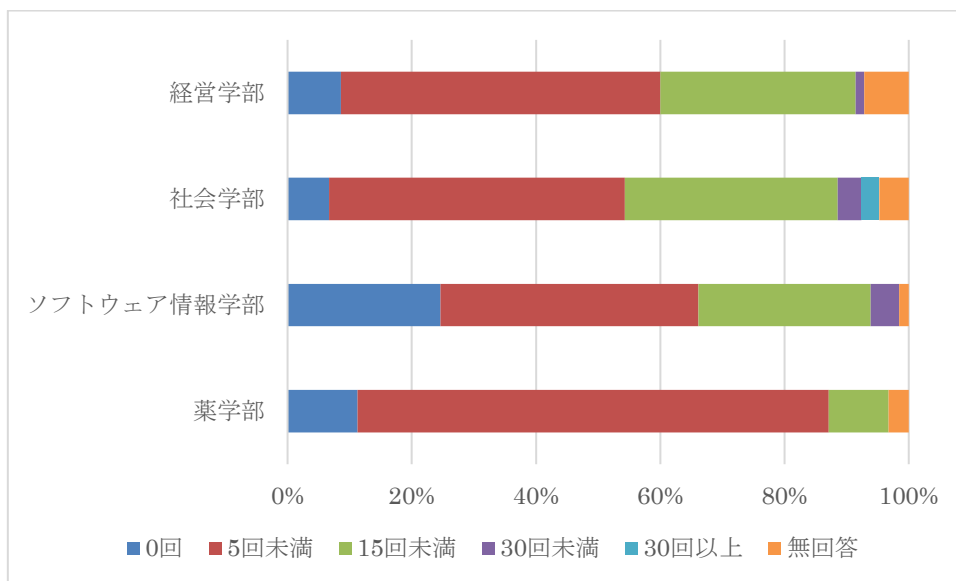


図7 発表の回数（学部別）

(授業時間外の学修)

(7) 授業時間外の学修行動の内容

授業時間外に行っている学修行動を、選択肢から複数選択する形式で回答させた。学部・学年ごとの結果を表6に示す。宿題やレポート作成等、教員の指示による行動は、宿題では経営学部3年生の50.0%や薬学部3年生の56.3%、レポート作成では経営学部1年生の42.3%やソフトウェア情報学部1年生(42.9%)と2年生(50.0%)を除けば、どの学部・学年でもほぼ7割以上の学生が行っている。一方で、学生が能動的に行う予習・復習・主体的調査の割合は全体的には低い。この三つのうちもっとも頻度が高い復習は、薬学部の1~3年全体ではレポート作成に匹敵するほど割合が高い。次いで、ソフトウェア情報学部3年生(64.7%)、同1年生(57.1%)、社会学部1年生(51.4%)が高めである。逆にもっとも頻度が低い予習では、割合が最も高い薬学部1年生でも45.5%であった。こうした傾向はこれまでの調査と同様であるが、教員の指示ではレポート作成が経営学部1年生とソフトウェア情報学部1・2年生で20~40ポイントも減少している。また、能動的な行動についてもほとんどの学部・学年で減少傾向が見られる。

表6 学修行動の内容

学部	学年	宿題	レポート作成	予習	復習	主体的調査	その他
経営学部	1年生	69.2%	42.3%	11.5%	19.2%	30.8%	0.0%
	2年生	80.0%	80.0%	25.0%	35.0%	40.0%	5.0%
	3年生	50.0%	75.0%	8.3%	4.2%	16.7%	0.0%
社会学部	1年生	89.2%	83.8%	18.9%	51.4%	24.3%	5.4%
	2年生	86.1%	83.3%	11.1%	27.8%	36.1%	0.0%
	3年生	68.8%	93.8%	18.8%	31.3%	40.6%	0.0%
ソフトウェア情報学部	1年生	71.4%	42.9%	14.3%	57.1%	28.6%	0.0%
	2年生	91.2%	50.0%	11.8%	35.3%	32.4%	0.0%
	3年生	88.2%	100.0%	23.5%	64.7%	29.4%	5.9%
薬学部	1年生	90.9%	81.8%	45.5%	86.4%	68.2%	0.0%
	2年生	95.8%	79.2%	33.3%	79.2%	45.8%	4.2%
	3年生	56.3%	93.8%	18.8%	75.0%	31.3%	0.0%

(8) 授業時間外の学修時間(最大、平均)

授業時間外の学修時間を、週単位で尋ねた。調査では、週ごとの最大値と平均値、大学内と大学外のどちらでどれだけ行ったかを回答させた。それぞれを学年別にまとめたものを、図8~11に示す。

まず最大値では、今回も大学内よりも大学外の学修時間が多い傾向が見てとれた。5時間以上学修していると回答した割合は、学内では学年ごとの差はほとんどないが、学外では2年生が他の学年よりも10ポイントほど少なくなっている。一方で「無し」と回答した割合は、学内/学外さらに学年に関わらず2割強であった。これまでと比べると、5時間以上と回答した割合がこれまで学内では3年生がもっとも多

かったが、今回は割合が減り他学年との差はあまり見られない。同じ割合は学外についてはこれまでとあまり変化はない。

平均値に関しては、「無し」と回答した割合が学内で2割台、学外で2割弱見られる。5時間以上と回答した割合は学内では1割程度、学外では3年生、1年生、2年生の順に1割から2割程度であった。学内/学外とも、ほとんどの学年で「2時間未満」に含まれる回答がもっとも多いが、学外の3年生では「2時間以上5時間未満」の方が若干多い。これまでと比較すると、学内の方は多少の変動はあるものの、どの区分の割合もあまり変化は見られない。一方、学外では2年生については大きな変動はないが、1年生と3年生では「5時間以上」から「2時間以上5時間未満」に移動している様子がうかがえる。とくに3年生はこの傾向が大きい。

依然として、とくに学内の授業外学修の時間が少なめなことが課題となっている。本調査の別回答（自由記述）でも学部に関係なく自習スペースの増設を求める意見があり、環境整備による改善も図りたい。

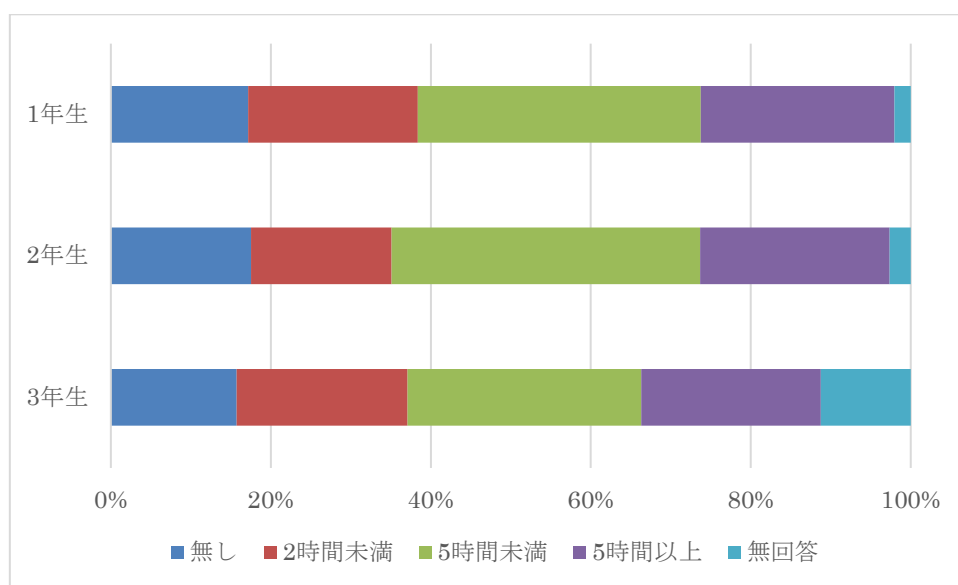


図8 授業外の最大学修時間（大学内、学年別）

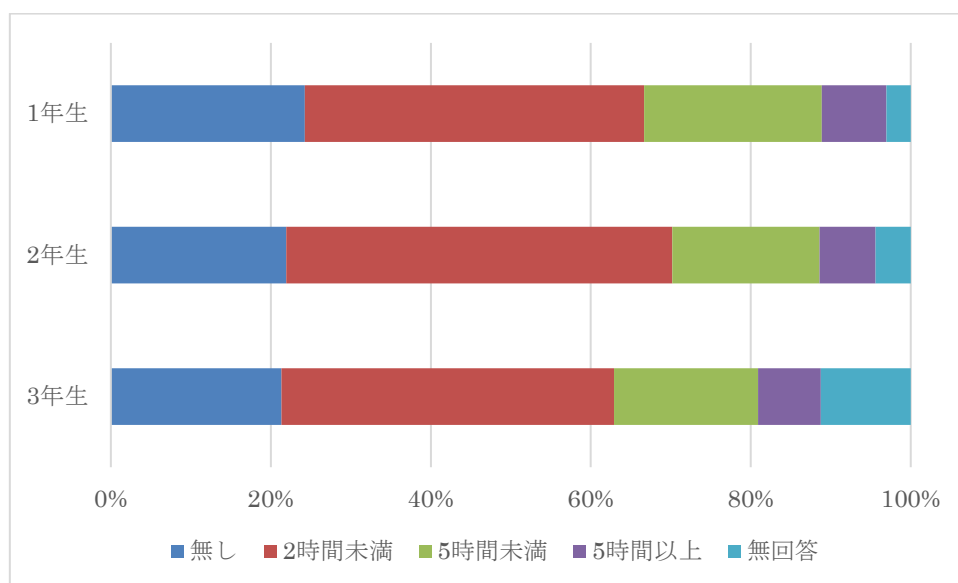


図9 授業外の平均学修時間（大学内、学年別）

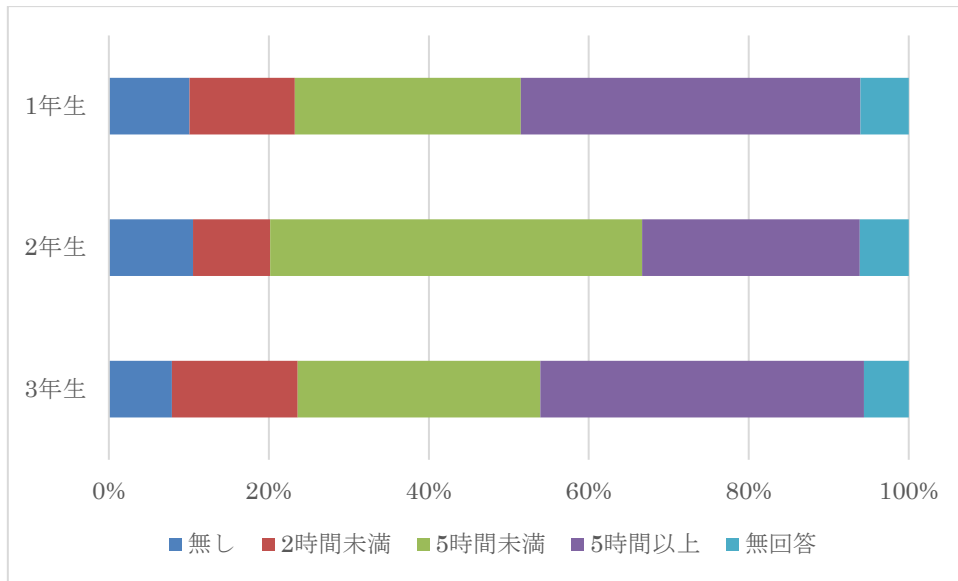


図10 授業外の最大学修時間（大学外、学年別）

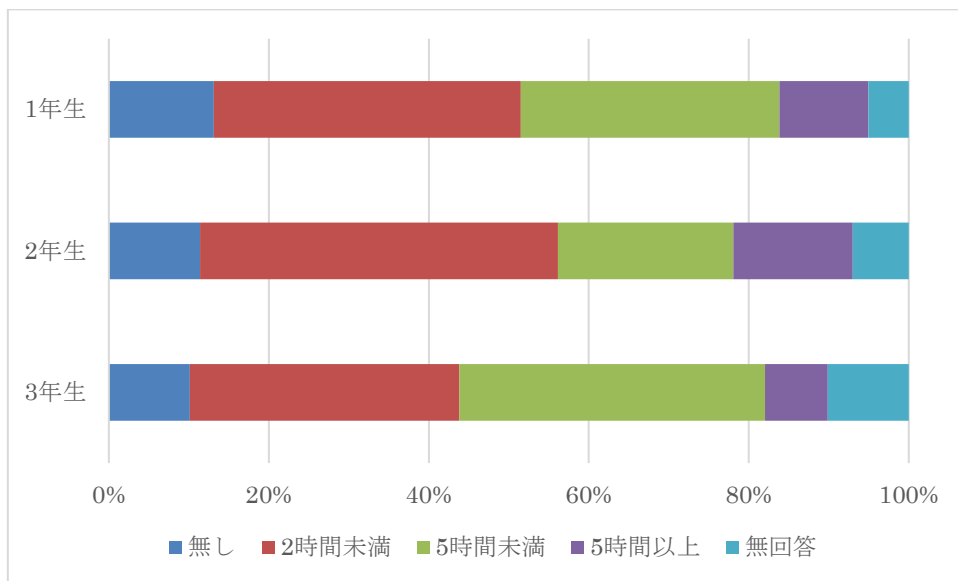


図11 授業外の平均学修時間（大学外、学年別）

(能力・行動の変化)

(9) 教員の部屋の訪問回数

学生がとくに授業外で行動する度合いを調べるために、授業時間外に教員の居室を訪ねる回数を調べた(図12)。呼出し等に応じるために、多くの学生は研究室を数回は訪れると考えられるが、一度も訪問しない学生の割合がどの学年でも2割強となった。一方で、5回以上訪問した割合も、1年生で28.4%、2年生が33.3%、3年生が26.5%と、一定数の学生が訪問している様子が見られた。

これまでの結果と比べると、後期は訪問回数が0回の割合が学年が上がるごとに減少していたが、今回は1年生が26.3%と若干多いものの、2年生と3年生はどちらも21%台とほぼ変わらなかった。また、

今回の結果は2年生と3年生では前回とほぼ同じであったが、1年生の訪問回数は全体的に少なくなっている。

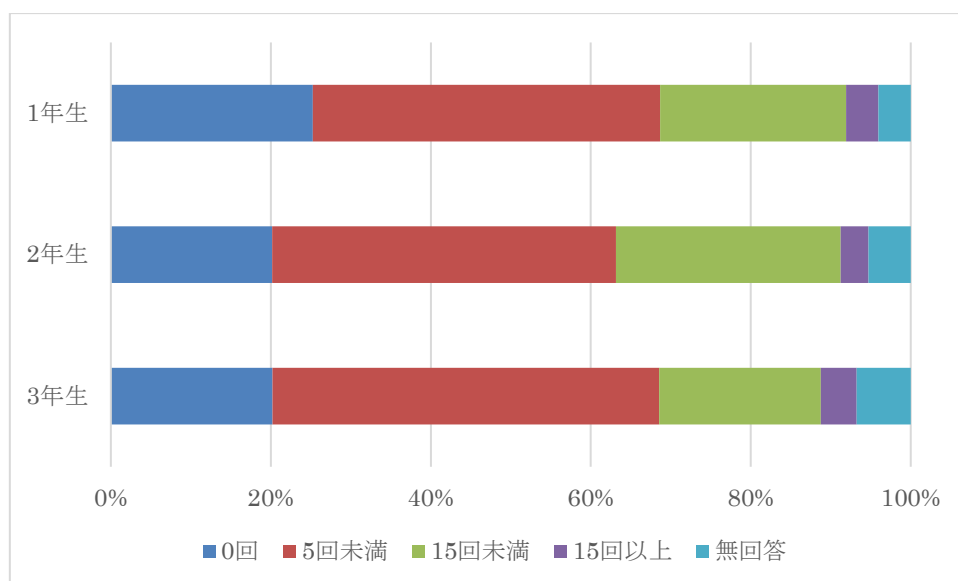


図 12 学年別の訪問回数

(10) 授業時間外での学内友人・知人との共同学習

授業時間外の学習を学内の友人・知人と共同で行う頻度を、三つの選択肢から選ぶ形式で尋ねた（図 13、図 14）。学年別では、「まったく無かった」と回答した割合がどの学年でも2割強、「良くあった」と回答した割合が多少ばらつきはあるものの2割前後であった。前回調査と比べ、どの学年でも「まったく無かった」が数ポイント増え、「良くあった」が数ポイント減少している。2年生の状況がもっとも低いのは前回と変わらない。

学部別では、薬学部において共同学習が行われている傾向が高く、他の3学部はほぼ同じ割合を示した。前回調査と比較すると、学年別と同様に、「まったく無かった」の減少と「良くあった」の増加傾向が見られた。前々回以前まで含めると、経営学部では調査によって揺れはあるものの共同学習の機会が増える傾向にあるものの、他の3学部では逆に減る傾向が見られる。

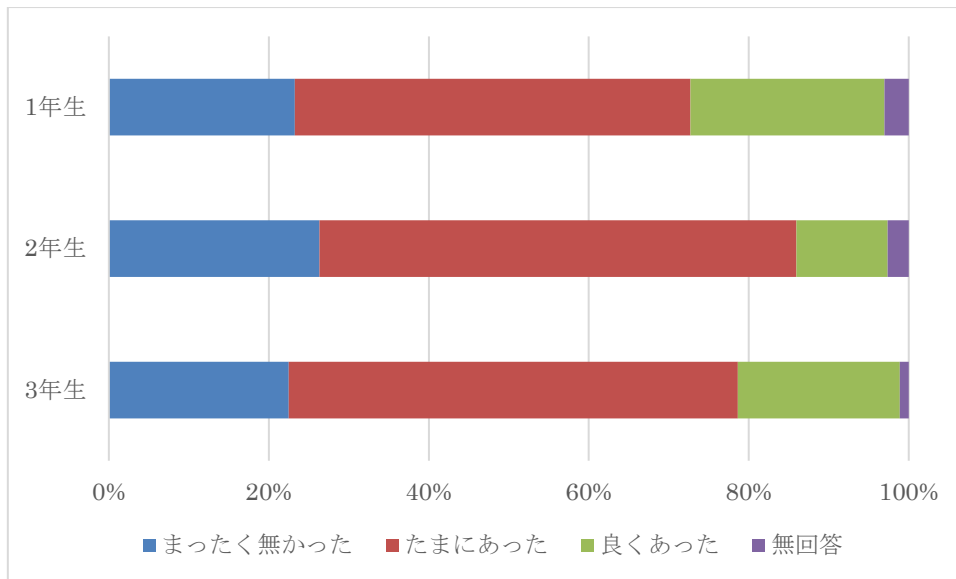


図 13 学年別の共同学習状況

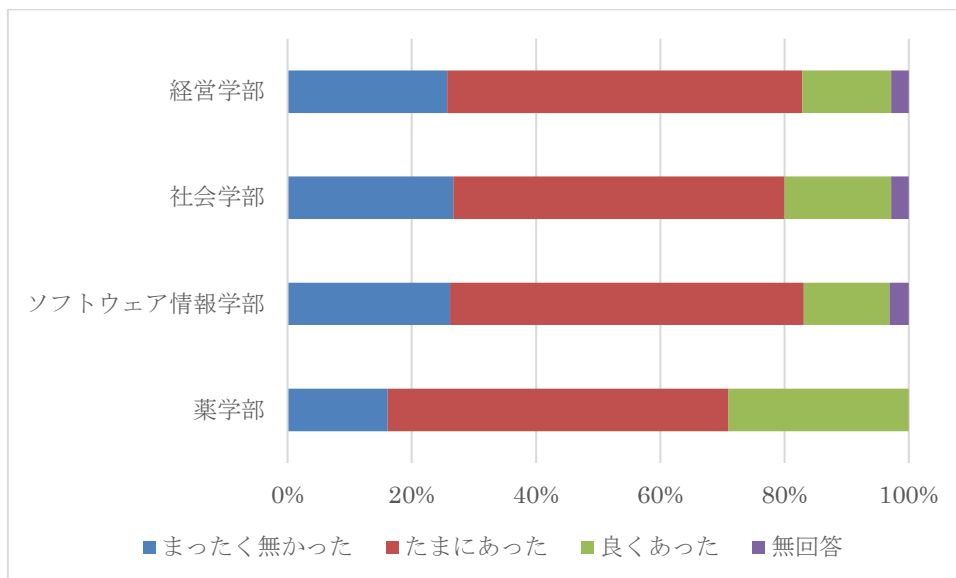


図 14 学部別の共同学習状況